



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 5 月 10 日(金)

発行 館長 加藤 智 一

宇都宮餃子は高畠石に通ず

先日、ちょっとした野暮用がありまして、宇都宮駅に立ち寄りしました。

宇都宮と言えば、浜松と一位二位を争う餃子激戦区。

それを象徴するように、西口二階ペDESTリアンデッキ上には、ビーナスが餃子の皮に包まれた「餃子のビーナス」の像が鎮座しているのであります。

なんとこの像、宇都宮市の特産の大谷石を使った、高さ 1.6 メートル、重さ 1.7 トンの削りだしの石像で、現代彫刻家の西松鉦二氏がデザインを担当し、大谷石材協同組合が提供した大谷石を使って宇都宮市商業観光課の担当職員の友人が無償で彫刻したものだとか。

設置当初は宇都宮駅東口の歩行者広場にありましたが、2008 年 10 月には東口再開発事業に伴い、西口へ移動しようとクレーンで釣り上げたところワイヤーが外れ、その衝撃で像の脚が折れて台座から落下したうえ、地面への激突時に像の胴体も上下まっ二つに割れてしまいました。そこで同年 10 月にはパテで接着され、西口ペDESTリアンデッキへ移転。しかし西口の設置場所はデッキの下で場所が分かりにくいいため、2 階のデッキ上への再移転。ところが、2014 年 10 月、再移転に際して慎重を期したものの、像の向きを逆に設置するという失態を犯し、直ちに補修。なんともいわくつきの代物なのでした。

宇都宮としては、餃子だけでなく、古くから大谷石で有名なところでもありますから、気持ちはわかる。

でも、大谷石は凝灰岩なのです。凝灰岩は火山が噴火したときの噴出物が陸上や水中に堆積してできる岩石です。主に数 mm 程度の細かい火山灰が固まったもので、堆積岩の一種とされます。柔らかく加工がしやすいのが特性。れだけにもろい。約 1,500～2,000 万年前に火山から噴出した火山灰や軽石岩片が海底に蓄積し、固結してできたものだそうです。

無数の気泡が含まれており、耐火性や防湿性にも優れているため、住宅や蔵、大きな建築物の石垣、斜面の土止め石（擁壁）など幅広い用途に利用されてきました。

山形県民ならば、凝灰岩のイメージはやっぱり高

畠石でしょうか。それとも山寺石。

ですからお城の石垣に凝灰岩を使っているなどという話を聞いたことがないのもそのせいでしょうか（知ったかぶりが過ぎると大友先生に怒られる）。

ちなみに山形城の石垣には、馬見ヶ崎川で採掘された玉石（安山岩）を割った石材が多く使われています。これらの石は割り面を前面に利用して積み上げられています。

山形城は、本丸（2.83 ヘクタール）・二ノ丸（27.99 ヘクタール）・三ノ丸（234.86 ヘクタール）を三重の堀と土塁で囲まれた輪郭式の平城で、東北では最大の規模を誇っています。なんと外郭である三ノ丸は、現存する日本最大の天守がある姫路城の外郭（約 233 ヘクタール）よりも広いのです。

安山岩は、火成岩の一種です。マグマが冷えて固まった岩石で、通常の石よりも硬く、耐久性にもすぐれています。日本国内には火山が多いので、安山岩を見る機会は非常に多い。だからお城の石垣は安山岩が多いのでしょうか。知らんけど。

